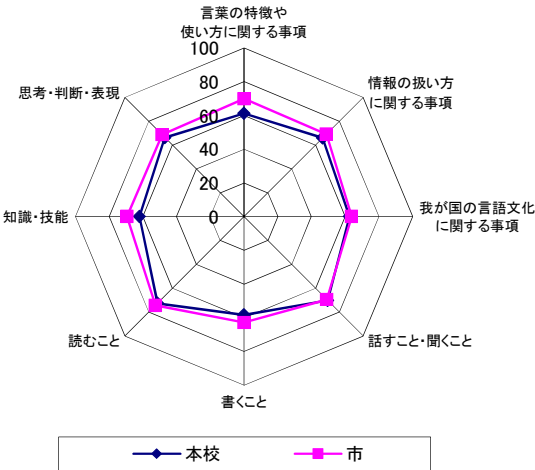


宇都宮市立清原南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.2	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	66.1	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	62.5	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	70.2	69.5	71.5
	書くこと	58.3	62.8	67.1
	読むこと	72.6	74.4	73.7
観点別	知識・技能	62.0	69.4	71.9
	思考・判断・表現	66.4	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

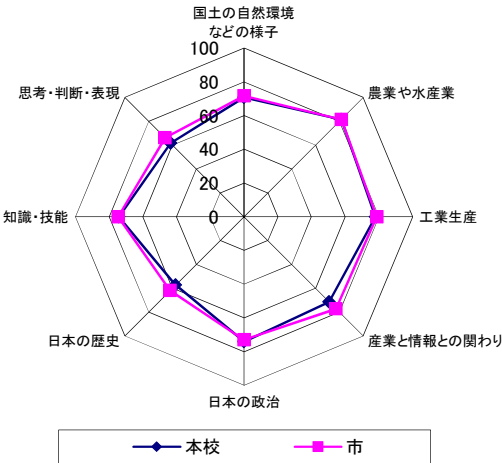
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	●平均正答率は61.2%で、市の平均正答率より8.7ポイント下回っている。 ●漢字の読み書きの問題や文脈に沿った漢字を書く問題では、すべての問題で市の平均を下回っており、漢字の定着が十分ではない。 ○敬語を正しく使う問題では、市の平均正答率とほぼ同等であり、概ね理解できている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎基本の定着のため、確認テストの実施やAIDリルの有効活用を進め、繰り返し練習して習熟を図る。 ・漢字を活用する力を付けるため、国語の授業をはじめとして、漢字を使うことを意識するように指導し、文脈に合う適切な漢字を読んだり書いたりすることができるようにする。 ・普段の生活から敬語を使った話し方を取り入れるようにするなど、時と場に応じた適切な言葉遣いを身に付けさせていく。
情報の扱い方 に関する事項	●平均正答率は66.1%と市の平均正答率より3.1ポイント下回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題では、原因と結果の関係などについて理解し、文章の情報を整理して考えることができています。 ●複数の情報を関連付けて分かったことを記述することに、課題が見られた。	・図書や新聞資料などを活用し、様々な情報の中から、原因と結果などの関係を捉える活動を引き続き取り入れていく。 ・タブレットや図書資料・新聞等を活用して情報を収集し、分かったことをまとめる活動を通して、自分の考えを伝える力を高めていく。
我が国の言語文化 に関する事項	●平均正答率は62.5%と市の平均正答率より1.3ポイント下回っている。 ●和語・漢語・外来語の区別についての問題では、定着が十分ではない。	・親しみやすい古文や漢文の文章を音読するなどして、独特なリズムや語調を実感できるようにする。 ・国語辞典や漢字辞典などを活用し、語彙・語句、語源に興味をもたせる。 ・漢字の学習の際に、音訓読みを意識して指導するようにする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は70.2%と市の平均正答率より0.7ポイント上回っている。 ○話を聞いて、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができています。 ●大まかな内容は理解できるが、話し手の目的や意図に応じた話し方の工夫を聞き取ることに、課題が見られた。	・内容を整理して聞く力や、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる力を高められるような話合いの場を、意図的に設ける。 ・役割や立場を明確にし、見通しをもって話し合えるようにするために、目的や意図に応じた話し方のポイントを具体的に示す。
書くこと	●平均正答率は58.3%と市の平均正答率より4.5ポイント低い。 ○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについてはできています。 ●自分の伝えたいことを、指定された長さや段落構成で書くことについては、課題が見られた。	・伝える相手や場面に応じて、自分の感じたことや考えたことを、指定に合わせて書くという活動を充実させる。 ・自分の考えを明確にして、考えたり書いたりする場面を意図的に設定する。 ・相手に分かりやすい文章かという観点で再度検討したり、友達と相互に吟味したりする活動を取り入れる。
読むこと	●平均正答率は72.6%と市の平均正答率より1.8ポイント下回っている。 ○登場人物の心情について描写を基に捉えることについては、概ねできています。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、内容を捉えることに課題が見られた。	・文章全体から、構成や状況を捉えて、正しく読み取る力を身に付けさせるために、根拠となる言葉を見つける活動を取り入れる。 ・引き続き読書活動を充実させ、様々な分野の本を読む機会を増やしていくことで、多様な考えをもてるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.7	71.6	67.5
	農業や水産業	81.5	81.5	82.1
	工業生産	78.0	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	71.4	77.2	68.2
	日本の政治	74.1	73.1	77.9
	日本の歴史	57.4	62.0	65.8
観点別	知識・技能	74.3	74.6	74.5
	思考・判断・表現	61.6	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

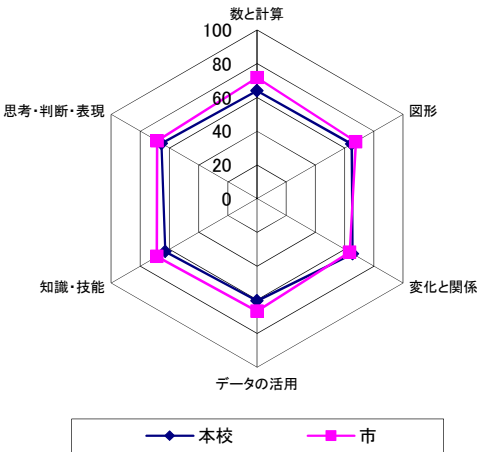
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●平均正答率は70.7%で、市の平均正答率より0.9ポイント下回っている。 ○韓国の国旗と位置についての問題では、平均正答率が85.7%で、市の平均正答率よりも13ポイント高い。身近な国である韓国への理解の高さが表れた。 ○日本の主な地形の名称と位置についての問題では、平均正答率が39.3%にとどまったが、市の平均正答率より2.2ポイント上回った。 ●日本の周辺の海洋名についての問題では、平均正答率は76.8%で、市の平均正答率よりも8.9ポイント下回った。	・引き続き日本周辺の国々の位置や海洋名などを正しく理解できるよう、世界地図などの資料を効果的に活用していく。 ・衛星写真や地図帳、写真などの資料を効果的に活用し、地形や国土の様子を具体的に捉えられるよう工夫するとともに、我が国の国土の自然環境と国民生活についても正しく理解できるように指導していく。
農業や水産業	○平均正答率は81.5%で、市の平均正答率と同等だった。 ○地産地消の取り組みについての問題では、平均正答率は85.7%で、市の平均正答率よりも3.2ポイント上回った。実生活での体験と結び付けて、地産地消についての理解が深まっている。 ●米の産地を表している地図を選択する問題では、平均正答率が75.0%と、市の平均正答率よりも4.6ポイント下回った。都道府県の位置と農産物の産地を結び付けることに課題が見られた。	・日本の食料生産に関する資料の読み取りと、農業における課題を関連して考察できるよう引き続き指導していく。 ・算数や理科などの他教科との横断的な学習を意識しながら、グラフなどの資料を読み取る機会を設ける。 ・日本の食料生産に関する知識を高め、地図と関連づけて理解できるようにしていく。
工業生産	●平均正答率は78.0%で、市の平均正答率より0.7ポイント下回っている。 ○自動車工場の作業工程についての問題では、平均正答率は94.6%で、市の平均正答率よりも2ポイント上回った。 ●自動車の出荷についての問題では、平均正答率は58.9%で、市の平均正答率よりも3.3ポイント下回った。資料から必要な情報に着目して読み取る力に課題が見られた。	・今後もメディアなどの情報を活用しながら、日本と世界とのつながりや貿易について興味関心をもてるように支援していく。 ・これからの工業生産の課題と、持続可能な社会の実現を意識した授業を展開していく。
産業と情報との関わり	●平均正答率は71.4%で、市の平均正答率より5.8ポイント下回っている。 ○メディアの特徴についての問題では、平均正答率は89.3%で、メディアごとの特徴は概ね理解できている。 ●コンビニエンスストアの発注システムについての問題では、平均正答率は53.6%で、市の平均正答率よりも9.2ポイント下回った。	・引き続き社会科と情報メディア教育との関連を意識し、インターネットを使用する際の注意点について正しく理解し、効果的に活用できる力を身に付けられるようにする。 ・授業で映像によるニュースや新聞記事などを取り入れ、正しい知識や判断力を養うようにする。 ・産業と情報との関わりについて、情報の活用と私たちの生活を関連付けて考えることができるようにする。
日本の政治	○平均正答率は74.1%で、市の平均正答率より1ポイント上回っている。 ○日本国憲法の理解についての問題では、平均正答率は80.4%で、市の平均正答率よりも3.8ポイント上回った。 ●基本的人権の尊重についての問題では、平均正答率は82.1%で、市の平均正答率よりも2.7ポイント下回った。生活の中の事例と基本的人権を結び付けて考えることに課題が見られた。	・今後も、日本国憲法の3つの柱の意義について考える機会を多くもつとともに、生活の中の事例と結び付けて理解を深めるようにしていく。 ・国会や内閣、裁判所の役割など、日本における三権分立について正しく理解できるよう、資料やメディアの情報を効果的に活用し、指導に生かしていく。
日本の歴史	●平均正答率は57.4%で、市の平均正答率より4.6ポイント下回っている。 ○大和朝廷についての問題では、平均正答率が73.2%と、市の平均正答率より8.5ポイント上回った。 ●奈良時代の文化についての問題では、平均正答率が26.8%にとどまり、市の平均正答率より8.5ポイント下回った。奈良時代の日本の文化に影響を与えた遣唐使の役割について、十分理解できていなかったと考えられる。	・動画資料や図書資料を効果的に活用するなどして児童の興味関心を高め、知識の定着を図る。 ・歴史上の出来事について自分事として捉えられるようワークシートや発問の工夫をこれからも継続して行っていく。 ・日本との関わりの深い国について時代ごとに整理し、資料をもとに時代背景を読み取る力を伸ばしていく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.0	71.8	76.2
	図形	64.9	67.7	67.8
	変化と関係	65.5	63.4	62.7
	データの活用	60.6	66.7	61.5
観点別	知識・技能	62.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	65.5	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

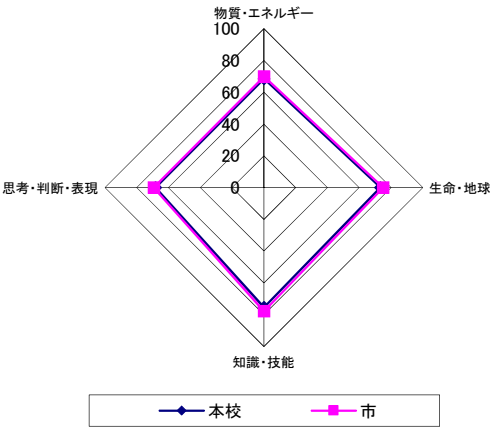
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は64.0%で、市の平均正答率より7.8ポイント下回っている。 ○文字を使った式が表す場面を適切に選ぶ問題では、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率より0.2ポイント上回った。 ●小数の計算及び分数の計算において、ほぼ市の平均正答率より下回っており、中でも異なる分母どうしの通分が必要な計算の問題では、市の平均正答率より22.6ポイント下回った。計算の仕方の定着が十分ではない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な小数・分数の計算や約分、通分の仕方などが身に付くように、習熟度別学習を行ったり、AIドリル等を活用して繰り返し練習問題に取り組んだりするなど個に応じた指導を行い、確実な定着を図る。 ・日常生活の場面や算数の学習場面で、小数で表された量について考えるようにし、小数倍などについて確実に理解できるようにする。
図形	●平均正答率は64.9%で、市の平均正答率より2.8ポイント下回っている。 ○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、平均正答率が78.2%で、市の平均正答率を2.5ポイント上回った。 ●線対称な図形の対称の軸を求める問題では、平均正答率は43.6%と低く、市の平均正答率より12.3ポイント下回った。 ●複数の図形を組み合わせてできた図形から、必要な図形の面積を求める問題では、平均正答率が約30%と低い結果であった。	・円の中心角を等分して正多角形を作図することを理解させ、円を使った正多角形作図問題を演習する。 ・線対称な図形と対称の軸との関係や点対称な図形と対称の中心との関係を理解させ、対称な図形の様々な問題の反復練習や演習を行い、定着を図る。 ・図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えるようにして、理解を深める。
変化と関係	○平均正答率は65.5%で、市の平均正答率より2.1ポイント上回っている。 ○図から面積と数の割合を求めて混み具合を考察する問題では、平均正答率が90.9%で、市の平均正答率より10.9ポイント上回った。 ●時速を秒速や分速に換算する問題では、平均正答率が50.9%で、市の平均正答率を8.9ポイント下回った。	・時間を表す単位が異なるときの速さの比べ方については、単位をそろえる必要性が生じることや、時間の単位の換算をしつかりと理解させた上で、時間や距離、速さの量感を具体的に捉えられるように事例を挙げて説明するなどし、速さの感覚を養うようにする。 ・(比較量)÷(基準量)=(割合)などの言葉の式だけでなく、数直線や図を描くなどして、数量の関係を捉える活動を大切にする。
データの活用	●平均正答率は60.6%で、市の平均正答率より6.1ポイント下回っている。 ○折れ線グラフの読み取りの問題では、平均正答率が85.0%で、市の平均正答率を4.7%上回った。 ●帯グラフを読み取って説明する記述問題では、平均正答率が21.8%と低い結果であった。また、市の平均正答率よりも12.7ポイント下回った。	・他の教科の学習と関連付けるなどし、日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理して、目的に応じてデータの特徴や傾向を考察できるような活動を取り入れる。 ・表から読み取る問題演習を通して、中央値などの代表値を場面に応じて読み取る力を身に付けさせる。 ・様々なグラフを読み取る機会を設け、データの見方について理解を深めるとともに、授業で発表の機会を増やすなどして、読み取ったデータを説明する力を養っていく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.4	69.9	67.8
	生命・地球	73.3	75.1	73.7
観点別	知識・技能	75.4	77.8	78.4
	思考・判断・表現	68.3	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●平均正答率は68.4%で、市の平均正答率より1.5ポイント下回っている。 ○リトマス紙の様子から水溶液の液性を答える問題では、平均正答率は65.5%で、市の平均正答率よりも9.3ポイント上回った。リトマス紙と水溶液との関係は概ね理解できている。 ○条件を変えたふりがが1往復する時間を、実験結果から推測する問題では、平均正答率は70.9%で、市の平均正答率より7.6ポイント上回った。 ●ふりがが1往復する時間と振幅の関係を調べる実験の計画を立てる問題では、平均正答率は56.4%で、市の平均正答率よりも12.6ポイント下回った。 ●炭酸水から出る泡が二酸化炭素であることを問う問題では、平均正答率は65.5%で、市の平均正答率より13.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の前に予想を立てる活動は毎回行ったので、予想、実験のめあて、実験という流れは定着した。しかし、予想の根拠が生活経験や既習事項から組み立てたものにならなかったり、お互いの考えを理解し合うための語彙力が不足していたりしていた。画像や動画などの視覚の情報は有効だったので、視聴覚教材を積極的に使用していく。 ・形として見えない物質についての理解を深めるために、実験の結果と身の回りの事象を結び付けることを繰り返し行い、知識の定着を図る。 ・実験結果を振り返ったり、結果から分かったことを記録を基に考えたりして、正確な知識の定着が図られるようにする。
生命・地球	●平均正答率は73.3%で、市の平均正答率より1.8ポイント下回っている。 ○茎を縦に切った時の水の通り道を答える問題では、平均正答率は85.5%で、市の平均正答率より7.5ポイント上回った。 ●植物に取り込まれた活力剤がどこに運ばれているかを分析する問題では、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率より6ポイント下回った。 ●空気中の気体についての問題では、平均正答率は80.0%で、市の平均正答率より8.9ポイント下回った。空気中の気体の成分についての理解が十分ではない。	・児童自身の言葉で予想やまとめができるように、言語活動の時間をしっかりと確保し、論理的な思考力を育てる。 ・理科的な語彙の不足が見られるので、小テスト等で繰り返し問題を解くことで知識を定着させる。 ・具体物を操作しながら学習するなど、日常生活に応用が利く、生きた知識の習得を図る。 ・日常生活と関連付けて考えることで、学習意欲を向上させ、主体的な学びにつなげるために、今後も、体験的な学びを意図的に取り入れ、科学的な思考の定着を図っていく。

宇都宮市立清原南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT等を活用した学習活動の充実を図る。	一人一台端末などのＩＣＴ機器や図書資料を活用し、自らの課題を解決していけるよう学校全体として取り組んでいる。	授業や調べ学習、発表などさまざまな場面で、一人一台端末などのＩＣＴ機器の活用を進めてきた。しかし、３年生以上で、端末を使つての「情報収集」や「まとめ」「相手に分かりやすく伝える」という項目の肯定的回答の割合の結果は、昨年度の結果を上回っているものもあるが、市の平均を下回っているものが多かった。
児童同士の協働的な学び合いを通じた思考力の向上と、教師のコーディネートを意識した授業を展開していく。	課題を明確にした話し合いを通し、自分の考えを整理したり、深めたりできる「学び合う仲間づくり」を意識した授業の実践を行っている。	学び合いを意識して学習活動を行った。一人一台端末の活用や教師のコーディネート力の向上を全校体制で取り組んだことで、児童同士、教師と児童、教材と児童のつながりができ、学習を進めることができた。「話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は、昨年度の結果や市の平均を上回っている学年が多かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・ICT等をツールとして活用して学習活動の充実をさらに進め、児童が主体的に問題を解決するために、情報を収集したり、整理・比較したりして、共有・発信することで思考を深めることができる授業展開の工夫改善を行う。
- ・学び合いの場を意図的に設定し、友達との伝え合いや聞き合いを通し、様々な情報や知識を共有するとともに、教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう教師が促す「学習の個性化」を図る。
- ・教科に関する調査の結果から、知識・技能の定着が十分ではないことが分かった。個に応じた指導と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫するとともに、AIドリル等を活用し、個の力に応じた学習に取り組み、基礎的な学力の定着を図る。
- ・家庭学習に関しては、計画を立てて取り組むことに課題が見られた。授業の復習やテストの解き直しなど、学年の発達段階に応じて、より確かな学力の定着に結び付く家庭学習の内容について示し、家庭と連携しながら、意識を高める工夫を実践していく。